



全労生・副議長（JA
M・副会長）

藤川 慎一

今年の春季生活闘争は「経済成長と所得向上を同時に進める」との連合方針を受け、全労生としては主張「好循環の実現に向け労使の覚悟と実践を」を発した。「経済成長さ

えうまくいけば好循環が実現できるのではな

求められる真の労使関係の充実 「労働の尊厳が守られる社会」を

く、貧困や格差拡大の現実を置き去りにした経済の持続的成長はあり得ない」とのスタンスである。

基盤となる。私が担当する組織・広報部会はこのような労働者目線での生産性運動を組織内のメンバーはもとより、広く社会に向けて発信していく使命もある。

このよう

また、人材育成という観点から、ユニオン

今、「ブラック企業」と呼ばれる企業がある。従業員を大量採用し、大量に離職させている。従業員を使い潰し、使い捨てにするような企業環境の中、労働組合の役割が増大している。

このよう

また、人材育成という観点から、ユニオン

我々は相互に理解できる仲間を増やし、真の労使関係を充実させることが、社会的にも求められている。近視

このよう

また、人材育成という観点から、ユニオン

我々は相互に理解できる仲間を増やし、真の労使関係を充実させることが、社会的にも求められている。近視

社会全体の公正な配分と循環が豊かな生活の

また、人材育成という観点から、ユニオン

我々は相互に理解できる仲間を増やし、真の労使関係を充実させることが、社会的にも求められている。近視